グの人生の始まりはとても辛いものでした。だから私たちはみんな、彼女がすてきな家庭に恵まれるべきだをはていました。今までにもいたのですが、私たちは彼女を心からしてくれる方を望んでいましてくれる方を望んでいました。そんな方が現れるまで2年の歳月を費やしましたがやってきたのです。

ある日、1件の相談の電話が かかってきました。マンシにも もした。ろしていたりをうろうろいたりをうろうろいた。 ではれて行かれたと言う大きに連れて行かれたと言う大きに でした人とでもおとなりである。 を引き取りたかででありたかででありたかででありたかででありたかででありたかででありたかって保護は がなかでできないのできないのでは考したのでできないないでできないのでできないないででありたかっていたでありたかっていただき、アークにその犬 を連れて帰ることにしました。 大阪北部エリア全体の犬が捕獲 される保健所に行ってみると、 結局その犬の飼い主さんがすぐ に現れて引き取ったところだと 言うことで、ほっとしました。 しかし、その同じ日に捕らえら れた小さな犬に気が付きました。 まるで「私を助けて」と訴える ような目をしていました。ここ で何もしなければ、その犬は殺 されてしまう運命なのです。そ のボランティアの方は、「私がこ の子を引き取ります」と申し出 ました。しかし、保健所の職員 は硬い表情で、「それはできませ ん」と言うばかりです。一度保 健所に捕らえられてしまうと、 その犬の飼い主でない限りその 犬を譲渡することはできないの です。窮した彼女は、アークに 電話をしました。私たちは、保 健所の職員に直接話をしました が、彼らの返答は変わりません でした。翌日には森ノ宮にある 処理場に送られる予定なので、 そこで交渉しろ、とのことでし た。私たちは、どんなにいい犬 でも森ノ宮に送られる過程で気 が狂ってしまうほど、その扱い が非人道的であることを知って いましたので、なんとか森ノ宮 送りになることを食い止めたか ったのです。翌日に私たちの友 人が森ノ宮を訪ねてみると、も ともと陽気なはずのメグはすで に脅えきって、臆病な犬になっ ていました。触ると牙をむくほ どでした。しかし何としてでも 彼女を助け出す決心をした私た ちは、ねばり強い交渉の上何と か彼女を引き取る合意を取り付 けました。しかしその期に及ん でも、まるでその手続きを長引 かせるだけが目的かのように、 当局は私たちが準備に何日もか かるような書類の提出を求めた のです。(もし彼らにひとかけら の人間性があれば、私たちが先 にメグを引き取って、書類の準 備はその後にということもでき たはずです。しかし彼らは、所 詮動物を愛する人間ではなく、 ただの行政システムの一部に過

ぎないのでしょう)メグがこの 犬処理場での悲惨な経験を乗り 越えるには暫くの時間がかり ましたが、次第に自信を取り ましたが、次第に自信を取り しました。しかし、その対しにな感じのする人間にに寄らばいか強くいました。避妊妊娠 ようにしていくとず彼女は妊娠 にもわわかりました。それ が理由で捨てられてしまったの かもしれません。

メグの新しい飼い主の方が初めて彼女に興味を示した時、(その方は小型犬を希望していました)私たちは不安から「メグはだめ」と心の中で思いました。しかしそうすることで、彼女がずっと幸せに暮らすことのできる家庭に巡り会えないとすれば、それは私たちの自分勝手な考えだと思い、その方にお願いすることにしたのです。

メグ、これからずっと幸せに ね!そして、またきっと会いに 来てね!

STORIES P-クに保護された 動物たちの物語



We all felt Meg deserved a really good home because she had had such a rotten start in life. Although several people showed interest in her, we wanted to find somebody who genuinely loved her. It was two years before the right person



came along. But in truth she was a lucky dog.

One day we received a phone call saying that a German Shepherd which had been wandering around the caller's apartment had been seized by the hokensho. He wanted to save it but he wasn't allowed dogs where he lived. Could we help? We asked a volunteer to go and offer to bring it back to ARK. When she arrived at the hokensho, a catchment point for all the stray dogs in the North Osaka area, she found that the dog's owner had just come to claim him so that was a relief. But at the same time she noticed a little dog which had been caught the same day. The dog's eyes seemed to be pleading with her to rescue it. And she knew that if she did nothing it would be fated to die.

But when she offered to adopt it, the hard-faced hokensho officer said, "No." Once the dog was taken into the system they would not release it except to the owner. He said that the dog was destined to go to the infamous dog death camp at Morinomiya the next day. We desperately wanted to stop the dog going to Morinomiya because we knew that the way dogs are handled en route is enough to turn a nice dog into a mad one. Sure enough when our friend went to Morinomiya the next day, Meg had transformed from a cheerful dog into a cowering fearful one. After much pressure the authorities agreed to let her go but even then were not going to let us have her easily. As if to make her suffering as prolonged as possible they demanded endless documents which took a couple

of days to obtain. (If they had had a streak of humanity, they would have given over Meg and got the documents later, but then these sort of people are bureaucratic robots, not animals lovers.) It took Meg a while to get over her awful experience in the hands of the dog killers but slowly she became more confident although always remained a little aloof and suspicious of nasty people.

When the person who was to become her new owner first showed interest in her (she wanted a small dog to keep her company at home) we all thought "oh no, not Meg." But then we realized we were being selfish in depriving her of a permanent and happy home. So she has left us. Good luck Meg, and keep in touch!